

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和元年12月23日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690200637		
法人名	株式会社 こふの希		
事業所名	こふの希		
所在地	富山県高岡市伏木矢田上町201-10		
自己評価作成日	令和元年11月18日	評価結果市町村受理日	令和2年1月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者職員全員が、理念通り、笑ってともに楽しく過ごせるよう、入居者一人ひとりに合わせた対応ができ、外出会の開催、多くのイベントを企画し、参加していただいている。公民館まつりの参加など、地域の方との交流も大切にしている。また、入居者の意思及び人格・人権の尊重に努めるとともに、個別の介護計画を作成し、入居者が必要とする適切なサービスを提供している。

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	令和元年12月4日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

職員は笑顔あふれる職場にあって、利用者が「安らぎとくつろいだ雰囲気」で正にほっこりするような生活ができるよう支援に努めている。季節の花見や地域の行事など、利用者の要望に合わせての外出支援は家族にも喜ばれている。職員は、利用者との馴染みの関係を築く一方で、馴れ馴れしい言葉遣いにならないよう、節度をもってケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	○
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない	○
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない	○
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない	○
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○

こふの希

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カンファレンスなどで共有している。またどのようにケアにつなげていくかを職員で話し合い実践につなげている。	利用者一人ひとりの人生を尊び、事業所が利用者にとって「安らぎとくつろぎの空間」となるよう、職員、利用者がともに楽しく笑顔で生活ができることを心掛けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方がボランティアに来てくれたり、地域の行事（公民館まつりや運動会）に利用者が参加したりしている。	隣接する公民館で文化祭などイベントがあれば積極的に参加し、近くの幼稚園や小学校の学習発表会、オレンジクラブなどのボランティアによる踊りや歌で地域の人と交流し利用者が楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校のボランティア委員会や授業の一環として、当事業所を利用していただいている。地域の方へ認知症の人の理解についての支援方法については、発信できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム長や管理者が出席し、その内容を職員に伝えている。また、議事録もいつでも見られるようになっている。	民生委員や自治会長の出席のもと、意見交換は有意義に行われている。事業所からは行事の予定やヒヤリハットの発生などを報告しており、委員からは、発生原因についてどのように対処されているのかなど、活発に意見が交わされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、密に連絡はとりあっていないが、地域包括支援センターの職員さんとは、運営推進会議を通じ、よりよいケアができるよう、協力関係を築いている。	市の高齢福祉課へは、わからないことがあればその都度相談しており、協力関係を築くよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修やカンファレンスなどで学び意識の共有をしている。施錠については夜間のみ防犯上玄関の施錠をしている。	身体拘束委員会は3か月ごとに開かれており、身体拘束をしないケアについては、研修会などを通じて職員全体に徹底されている。防犯上玄関は施錠されているが、利用者に外出の気配があれば、職員はそっと寄り添い、不安を抱かせないように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段から身体拘束や虐待はしないという意識をもっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加するなどして、参加した職員は、権利擁護に関する制度をある程度理解できている。他の職員にも、内部研修などで周知したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行っている。家族と話した内容については、職員に説明があり、情報共有している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族の意見をきいたり、意見箱も設置している。	家族が事業所に来訪された折に意見などがないか問いかけている。家族から、「着替えさせてほしい」との要望があったときは、利用者の希望を聞きながら着替えを進めている。	家族へは毎月「こふの希だより」が送られているが、イベントの様子などに加え、利用者個々のケアの様子や体調についても伝えるなど、事業所と家族とのコミュニケーションをより一層向上させることが期待される。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや面談などで意見を言える機会がある。	機会あるごとに職員の意見や要望を聞く場を設けている。エアコンの吹き出し口で風が強くとるなどの意見があり、吹き出し口にカバーを取り付けるなど、管理者は職員の意見を大切に扱っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務シフトは、各職員の希望をできる限り取入れローテーションを組んでいる。家庭と仕事の両立、人間関係を含め、なるべく働きやすい環境になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受ける機会を設け、理解を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修や相談等で同業者と関わる機会があり、そこで関係性を築いた方と、連絡を取り合う事がある。 (事業所の空き状況や、トレード、無理なお願いなど)		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を行ったり、本人や家族の言葉を大切にシアセスメントを行い、カンファレンスで話し合いをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めている事など、利用者に対する思いと、利用者の気持ちに配慮しながらアセスメントを行い、ケアの方向性を話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々なサービスの中から本人のニーズに合わせた支援を行えるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中でできる事を続けていただけるように努めている。職員が知らない事を教わる事も多い。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えている関係を築いている	家族が来所した時には、本人の様子を伝えたり、相談したりしている。また、色々な面で家族の協力をいただく事もある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人が来所される事はあるが、こちらから出かける事は少ない。	友人、知人の来訪時には、職員も一緒に話を聞くなど、事業所に自由に出入りできるよう支援している。また、利用者が季節の花見や伏木けんか山祭りに出かけるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーションなどを通して、常に利用者同士の関わりに気を配り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した家族が相談に来られる時がある。相談を受けるなどの体制づくりに努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の言葉を大切にし、その人らしさとは何かを考えケアにつなげている。	利用者には、ゆっくり時間をかけて関りながら、思いや意向を聞くようにしている。普段の利用者同士の会話やレクリエーションを行う中での発言で、思いを掴める時もあり、その時々情報を職員間で共有し、ケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から情報を得てケアにつなげ、更にアセスメントを行い、カンファレンスで検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、アセスメントを行い、カンファレンスで検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>カンファレンスで話し合い、本人の状態に変化があった時には、すぐに見直しをしている。</p>	<p>その人らしい生活を送られるよう、本人、家族の思いを基に介護計画の作成に取り組んでいる。体調の変化や気づきがあれば職員間で検討を行い、随時見直しを図っている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子を個別記録に記入し、現場でも常に情報共有をしている。</p>			
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>様々なニーズに対応し、本人にとって一番良い方法を常に考えるようにしている。</p>			
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の行事に参加したり、地域の中でより良く暮らせるよう努めている。</p>			
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人や家族の意向を踏まえ受診したり、往診に来てもらうなど、柔軟に対応している。</p>	<p>本人、家族の希望するかかりつけ医を大切にしており、入居前からのかかりつけ医を利用されている方も多。往診や受診など、いつでも適切な医療を受けられるよう情報提供を行い、家族と連絡を取りながら進めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時には医師と話しをする機会を設け、グループホームで対応できる段階で退院できるよう協力している。入院中にも面会に行き、病院関係者と情報交換を行い、良い関係作りに努めている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	随時、家族、主治医、地域連携室と相談しながら現在の状況を伝え、どのようになったら、どのような対応をするのかなど、取り決めを行っている。場合によっては、病院やその他事業所へ結びつけるなどの支援を行っている。	重度化や終末期ケアに向けての事業所の取り組みを、現況に合わせて家族に説明し、理解を得ている。今後、職員の終末期ケアに対する認識を高めたいとの思いもある。	最後までここで過ごしたいとの利用者、家族の思いを受け止め、職員間で重度化や終末期対応への認識を高める為に、勉強会や研修会などで更なるケア向上に取り組むことが期待される。
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	緊急時のマニュアルを作成しており、対応できるよう周知している。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	様々な想定で定期的に避難訓練を行っている。	消防署立ち合いの避難訓練を年2回行い、様々な災害や時間帯を想定して実地している。備蓄品などは、ライフラインが止まった時を予想して準備を行っている。	隣接する公民館の職員にも避難訓練への参加をお願いしたり、地域の消防団へ非常時の協力をお願いするなど、地域への更なる働きかけが望まれる。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき、さりげない支援に努めている。	職員は、利用者一人ひとりを敬う意識を持ち、大きな声や否定的な言葉で対応しないよう注意している。職員の仕事に対して、利用者から感謝する言葉も聞かれ、職員は、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすい声掛けを工夫したり、思いや感情を出しやすいような関わりを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思い、ペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に、床屋さんに来ていただき、カット顔そりだけでなく、カラーやパーマなど、自分の好みになるようにしてもらっている。また、外出時には本人の好まれる服を選んで着ていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	能力に応じて、準備や片付けを一緒に行っている。食欲がない時には、嗜好に配慮したり、形態を工夫したりしている。	キーマカレーに南瓜のサラダなど、色どりよく盛り付けされたお皿を、目でも楽しみ利用者は美味しく味わっている。調理を担当した職員に、毎回お礼を伝える利用者もおられ、気遣いと感謝の気持ちを受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を毎日記録し、不足している時は好んで食べるものを提供したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシ、歯間ブラシ、口腔スポンジ等を使用し、それぞれに応じたケアを行っている。義歯洗浄剤も定期的に使用し清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	それぞれの排泄パターンの把握に努めており、声掛けや誘導などその都度行っている。	トイレでの自立に向けた排泄に取り組み、日々の体調を見ながら進めている。安心の為に、ポータブルトイレを居室に置くことで失敗の不安を取り除いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、寒天ゼリーの提供、牛乳の提供、水分補給に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	時間は日中になってしまうが、入浴の順番、女性職員の介助など、本人の希望にできるだけ応じられるよう、その都度考慮している。	男性職員の介助を拒否される利用者には、本人の気持ちを大切に女性職員でプライバシーに配慮しながら入浴支援を行っている。リフトを使用しての入浴には、安心してゆっくりと入浴できるよう安全面に注意して取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣、状態に合わせて、いつでも休息できる。居室内の温度等、環境を整えたり、安心して眠れるよう声掛けするなどして対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は、一人ひとりのカルテに綴られており、いつでも確認できる。薬の変更時には職員全員が把握するよう伝達を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的な作業や役割の定着を行っており、個々の楽しいと思える事や時間が増えるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出会の行事を設けたり、買い物に出かけるなどしている。また、本人の希望でお墓参りに行きたいなど、要望があった時は家族に依頼して、できるだけ希望に沿えるよう支援している。	公民館が隣接しており小学校も近くにあることで、それぞれの行事に招待されることも多く、地域住民や子供たちとの交流も頻繁である。時々はドライブで季節を楽しんだり、伏木けんか山祭りには、利用者も喜んで出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じて家族と相談し所持している方もいる。買い物なども希望があればいつでも対応できる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方が数名おられ、自ら家族や友人に連絡をとっている。施設の電話にも家族からかかってくる時があり、とりついでいる。手紙を書かれる方もおられ、職員が預かり投函している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りつけをしている。不快な刺激や音をたてないように特に気をつけている。	玄関に入ると、手作りのドラえもんのサンタクロースが出迎えてくれる。共有スペースのリビングや廊下にはクリスマスツリーや冬の飾り付けがなされ、温かさと和やかな雰囲気が感じられる。職員に買い物を頼んだり、来訪者に明るく声かけしたりと我が家のように利用者は過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りで過ごしたり、他者と楽しく過ごせるスペースがある。その時の気分で思うように過ごせる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使用していた物や馴染みの物を置いたり、家族の写真を飾ったりしている。	自分の部屋の位置づけを、「廊下突き当りの左側」という拘り、「洗濯物は自室で干す」という拘りなどを大切にして、利用者が使いやすい、安心して過ごせる居室になるよう家族と共に支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に応じた環境整備を行っている。転倒などの危険がないよう配慮している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 こふの希
 作成日 令和 2年 1月 7日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	家族へは毎月「こふの希だより」が送られているが、イベントの様子などに加え、利用者個々のケアの様子や体調についても伝えるなど、事業所と家族とのコミュニケーションをより一層向上させることが必要。	事業所と家族とのコミュニケーションをより一層向上できる。	「こふの希だより」にコメント欄を設け、一人ひとり、最近の様子や、状態などを記入し、施設での様子を家族に伝える。	1ヶ月
2	33	最後までここで過ごしたいとの利用者、家族の思いを受け止め、職員間で重度化や終末期対応への認識を高める為に、勉強会や研修会などで更なるケア向上に取り込む。	職員全員が、重度化や終末期対応への認識を高める。	外部研修に積極的に参加し、内部研修に落とし込む。重度化や終末期対応への職員全員の意識を高め、ケアレベルを上げる。	6ヶ月
3	35	隣接する公民館の職員にも避難訓練への参加をお願いしたり、地域の消防団へ非常時の協力をお願いするなど、地域への更なる働きかけ。	地域の方に避難訓練の参加をお願いする。	運営推進会議の際に民生委員さん等に避難訓練の参加を依頼し、一緒に避難訓練を行う。	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

こふの希